

山形県衛生研究所報投稿規定

1 投稿者の資格

原則として当所職員とする。ただし、共著者や依頼原稿の場合はこの限りではない。

2 原稿の種類

原稿は、総説、原著、短報、資料（図、表、写真等を含む）および抄録とする。

- (1) 総説：研究・調査論文の総括、解説。内容、形式は自由とする（原稿20枚以内）。
- (2) 原著：独創性に富み、新知見を含むまとまった研究業績。形式は原則として英文要旨、キーワード、はじめに、材料と方法、結果、考察、文献の区分を設け順に記載する（原稿20枚以内）。英文要旨は250語以内とする。
- (3) 短報：断片的な研究業績で、新知見が認められるもの。形式は原著に準ずる（原稿10枚以内）。
- (4) 資料：試験、検査、調査等で記録しておく必要のあるもの。形式は原則として原著に準ずるが、要旨は日本語で500字以内とする（原稿30枚以内）。
- (5) 抄録：本誌以外の学術雑誌、または学会で発表したもの（原稿1枚以内）。

3 原稿の決裁および締め切り

原稿は部ごとに所長決裁を受ける。なお、原稿締め切り日は毎年9月末日とする。

4 原稿の書き方

- (1) 原稿はA4判の用紙を用い、25字×45行の横書きとする。英文要旨はA4用紙にdouble spaceでタイプする。
- (2) 原稿の1枚目には、原稿の種類、題名（和文および英文）、著者名（和文および英文）、著者所属を記入する。また、所定の原稿用紙に誌上発表の場合は、題名、著者名、雑誌名、巻（号：通し頁の場合は省略）、始頁～終頁、発行年を、学会発表の場合は題名、発表者名、学会名、会場都市名をそれぞれ順に記入する。
- (3) 図表原稿はA4判の用紙を用い、図表の番号および表題名を記入し（図は下部に、表は上部に）、本文原稿の欄外にそれぞれの挿入位置を指定する。ただし、各自で割り付けを行った場合はこの限りでない。
- (4) 原稿は当用漢字、現代かなづかいを用い、簡潔で理解しやすい表現にする。句読点およびかっこは1字に数え、行を改めるときは1字空けて書き始める。数字は算用数字を用い、単位は（SI）を用いる。
- (5) 文献は、本文の引用ヶ所の右肩に1）、1）～5）のように示し、引用文献は、次の形式で論文の最後に引用順にまとめて記載する。著者名は原則として5名まで記入し、それ以上については、和文では、“他”、欧文では“et al”とする。雑誌名は和文誌名の場合略記せずに完全誌名を記し、欧文誌の場合は国際的慣行に従って略記する。

雑誌の例 番号) 著者名：表題、雑誌名巻(号)、始頁～終頁、発行年

1) 堀口申作, 齊藤洋三: 栃木県日光地区におけるスギ花粉症 Japanese Cedar Pollinosis の発見, アレルギー 13, 16~18, 1964

2) Brewster DH, Broun MI, et al: An Outbreak of Escherchia coli O157 Associated with a Children's Paddling Pool, Epidemiol Infect 112(3), 441~448, 1994

単行本の例 番号) 著者名：表題、書名、出版社、出版地（出版年）、pp.始頁～終頁、

1) 齊藤行生: 農業等による環境汚染, 食品衛生ハンドブック, 藤原喜久夫, 栗飯原景昭 監修, 南江堂, 東京 (1992), pp.670~682

2) Doll R, Peto R: The Causes of Cancer, Oxford University Press, New York(1981), pp.120~124

(6) 脚注は、本文に*を用い記述する。

(7) 要旨は原稿の種類にかかわらず本文を読まなくても、内容の要点が理解できるように作成する。キーワードは表題および要旨から抽出する。なお不十分な場合は本文から補充する。キーワードは国際的に広く通用するものにする。

5 著者校正は2回までとし、以後の校正は生活企画部が行う。校正時の新たな追加あるいは変更はしない。

6 その他、編集に関し必要な事項は編集委員会において決定する。

7 この投稿規定は、2007年9月1日から適用する。